

令和3年度第2回 岡崎市美術博物館協議会会議録

1 開催日時及び場所

令和4年2月16日（水）13:56～16:03

岡崎市美術博物館 1階セミナールーム

2 出席委員（定数10名 1名欠席）

会長職務代理	井上 瞳	（学識経験）		
	長坂 博子	（学校教育）	石原 真吾	（学校教育）
	鈴木 章司	（社会教育）	太田 公典	（社会教育）
	加藤 安信	（学識経験）	林 羊歯代	（学識経験）
	菅沼 和子	（市民公募）	倉光 智子	（市民公募）

（欠席委員は、澤 博史会長（社会教育・家庭教育）1名）

3 館長及び説明のため出席した事務局職員（8名）

美術博物館特任館長	榊原 悟	社会文化部長	手嶋 俊明
美術博物館長	鈴木 智子	美術博物館副館長	鈴木 温子
美術博物館学芸係係長	大澤 一実		
地域文化広場館長	三宅 葉子	地域文化広場副館長	稲垣 満春
美術館長	村松 和明		

4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

また、同規則第7条第4項の規定により副会長に会長職務代理をお願いした。

5 会議の内容

次第1 報告事項

（1）令和3年度 展覧会開催状況について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和3年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員 A = 講演会の申し込みはインターネット予約だけか。

事務局 = インターネットだけでなく、ハガキでも受け付けた。

委員 A = 講演会は抽選を行ったと思うが定員はどれくらいか。

事務局 = 定員は、コロナ対策のため、通常の半分以下 30 名とした。

委員 A = 定員に満たない場合は当日参加を認めたのか。

事務局 = 事前申込のみとし、当日参加は認めなかった。昨年度までは、当日先着順で、整理券を配布するため並んでいたが、コロナ禍での開催ということで、安全性を考慮し、今年度は事前申し込み制にした。至宝展の講演会は、定員を大幅に上回る申し込みがあり、抽選を行ったが、当日連絡なしに欠席する方もいて、結果的に定員を割る参加人数となった。

委員 B = 「至宝展」は、内容が濃く、充実していた。近世までの歴史をきちんとした歴史観で展示できていた。図録もしっかりしており、学芸員の力量がわかる。今回の展示を原型として、いつか常設展示が実現できるといい。

展示に関して言うと、関係寺院などの所在地が地図で示してあると、市外の方にもより理解しやすくなったと思う。土井城絵図などは、南を上にして展示されていたが、絵図については、北を上にしたほうが一般的にわかりやすいと思う。矢作川の人面墨書土器については、その真偽をめぐる議論についてもきちんと解説されていてよかった。「絹本着色」と「絹本著色」と表記が統一されていなかったのも、統一した方がよかった。

事務局 = 複数の学芸員で作り上げた展覧会のため、表記の統一ができていなかった。表記を統一するべきだった。

委員 C = 「至宝展」は、今年メインの展覧会で内容もよく、2部に分けるほど充実した展示であったのに、入場者数が少なかったことにたいへん驚いた。岡崎が家康だけでないことがよくわかった。宣伝の仕方、市民や学校へのアピールはどのようになっているか。アンケートの反応はどうか。開催中の「美術にまつわる5つの話」展を見て、美術博物館に多くの収蔵品があると知って驚いた。収蔵品を収集するコンセプトはどのようになっているのか。

事務局 = 市民への周知は、他の展覧会と同じように行っている。「至宝展」の入場者数は、事務局としては少ないとは思っておらず、むしろ歴史系の展覧会としてはたく

さんの方に入館いただいたと感じているが、「渡辺省亭展」や「水木しげる展」と比べると、入場者数が少ないのは事実。「省亭展」、「水木展」は、市外・県外からも多くの来館があり、それが入場者数を押し上げたと感じている。また、どちらの展覧会も新聞社などが主催に入っていた関係で、メディアで紹介される機会も多かったことが入場者数の増加につながった。

収集コンセプトは、3館でそれぞれ異なり、美術博物館では家康とその時代や地元の歴史・文化に係る資料、地域文化広場では有名画家の10代の作品、美術館では地元に係る作家の作品などとなっている。収集に際しては、収集委員会に諮っている。

議長＝「渡辺省亭展」などは、NHKの日曜美術館でもとりあげられていたので、大きな宣伝になったと思う。

委員D＝美術博物館の「至宝展」は、内容もよく、入場者も入りよかったと思う。地域文化広場の「巨匠たちの10代」、「シャガール展」は、子どもの入場者が少ない。子どもが芸術に興味を持つような導入が欲しい。

事務局＝「シャガール展」では、子どもが興味を持って鑑賞できるよう「わくわくノート」を作成し、版画に隠れている動物を探すなど子ども向けの取り組みを行ったが、新型コロナの影響などにより、入場者数が伸びなかった。

委員E＝「シャガール展」は、点数も多く、作品の大きさも様々、バラエティに富んだ展示でよかった。「ウルトラマン」や「3Dトリックアート」は、カメラで撮影できるので、子どもも興味を持って参加できるいい企画だった。子どもが芸術に親しめる展覧会や子どもが興味を持てる展覧会をバランスよく開催することが大事だと思う。

委員A＝「シャガール展」は、解説文が多く読みごたえがあり、楽しめた。解説文の位置が低めと感じたが、子ども用にしては漢字が多く文章も難しい。大人と子どもどちら向けなのか。

事務局＝作品も解説文も親子でご覧いただけるようお子さんの目線に合わせて設置してある。

委員A＝大人が連れて行かないと子どもは行けない場所にあるので、大人が連れて行きたくなるような工夫が必要だと思う。

委員F＝「シャガール展」は、見応えがあった。美術博物館は、展示室のレイアウト

が素敵だと感じた。展覧会ごとに入出口を変えたり、室内の演出もよい。どこか素敵な世界に誘われるような演出だったと思う。解説の量が多いので、来館者の特典として、QRコードで読み取って自宅でも解説が見られるとか、講演会やギャラリートークに都合が合わなくて行けなくても、館外で視聴可能だとより展覧会を深く理解できていいと思う。

事務局＝QRコードを読み取って解説が読める取り組みを他館でも行っていることは承知している。予算や権利問題等のハードルはあるが、当館としても今後検討していきたい。

議長＝美術博物館、地域文化広場の今年度の展覧会はどちらも充実した展覧会で、大人も子どもも楽しめるいいラインナップだったと思う。

次第3 議事

令和4年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和4年度開催予定の展覧会について、事務局からの説明をお願いします。

事務局＝（令和4年度開催の各展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員D＝名取春仙のことは知らなかった。これは購入したものか。

事務局＝もともと当館に寄託されていた浮世絵コレクションの一部だが、所有者が亡くなり、財産整理の際に当館で購入した。名取春仙だけでなく岡崎関連の江戸時代の浮世絵や歌川国芳の水滸伝シリーズをセットで購入している。

委員D＝目標入場者数が控えめではないか。

事務局＝収蔵品の紹介となり、今まではあまり注目されていない新版画というジャンルなのでそのように設定した。

委員D＝最近注目されているジャンルのようなので、ぜひたくさん宣伝して、多くの方に見ていただけるといい。

議長＝「名取春仙展」は、味付け次第でいい展覧会になると思う。先ほど説明のあった今年度の開催状況の資料についての意見だが、新型コロナウイルスが展示活動にどのような影響を及ぼしたのかわかるように、非常事態宣言、まん延防止等重点措置、入場制限などの状況も、資料に記載しておくべきだと思う。

委員D＝地域文化広場の展覧会は、どれも魅力的な企画だと思う。芸術性の高い展覧会も今後取り入れてほしい。

事務局＝来年度は子どもが遊べるものを中心に計画した。

委員D＝「リトルアーティスト展」は、年度当初と年度末で開催日数があまり違わないのに目標来館者数がずいぶんちがうのはなぜか。

事務局＝年度末は、春休み期間中であるとともに、会期の前半でもあるため、多くの来館者を見込んでいる。

委員B＝「あそべる宇宙博」は、さすがに無重力を再現することは難しいと思うが、映像などを駆使して宇宙を体感できるようにしてほしい。

事務局＝宇宙を体感できるような空間は作りたいと思っている。プラネタリウムも検討している。

委員G＝子どもといつもいる立場としては、子どもたちは無料で入場できるのに来館しない。公共交通機関がないため、大人が連れて行かないと、子どもたちは行くことができない。保護者が足を運ぶようにするには大人にとってのメリットが必要だと思う。行くまでのハードルが下がるといいと思う。名鉄とコラボしてバスを出してもらうなどできるといいと思う。一度でも来館してもらえば、いい施設であることがわかってもらえると思う。

事務局＝名鉄の協力を得ていきたいとは考えているが、バスは難しいかと思う。どういった連携ができるか今後検討していきたい。

議長＝他市では市が負担して学校単位で美術館や博物館へバスを出す取り組みがあるが。

事務局＝以前は市内全小学校の4年生を対象に造形センターに来てもらう取り組みがあったが、予算等の関係で縮小され、現在は約10校に造形教室に来ていただいている。コロナの関係で、バスの定員も半数となり、実施が難しい。

議長＝今の意見は貴重だと思うので、協議会でこのような意見が出たということ
を伝え続けてほしい。

それでは、ご意見も尽きたようですのでお諮りします。令和4年度に開催予定の
展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

(全員承認)

議長＝令和4年度開催予定の展覧会については、承認されました。事務局はただい
まの意見を踏まえて、来年度予定されている展覧会をよりよいものにするために準
備を進められるようお願いいたします。

次に、議事(2)の「令和5年度開催予定の展覧会計画について」事務局より説
明をお願いします。

事務局＝(令和5年度開催予定の展覧会計画について、開催予定期間、内容等を資料
に沿って説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員D＝市内の染織家の着物を最近収蔵されたと聞いたので、難しいかもしれないが、
日本の色の展覧会で一緒に展示していただけるといいと思う。

委員E＝名古屋市美術館などは新収蔵作品を展示している。美術館でも新収蔵品の紹
介をしているので、市内の染織家氏の作品も美術博物館かどこかでお披露目しない
のか。

事務局＝市内の染織家の作品は寄託資料なので、今後こういった取り組みができるか
検討はしたい。

委員F＝「造形おかざきっ子展」は、過去2年オンライン開催になってしまったが、
令和4年度からは中央総合公園で理科・技家作品展などと同時開催する予定。令和
5年度は「おかざきっ子展」の60回記念展となるので、「大河ドラマ特別展」とタイ
アップできるといいと思う。「おかざきっ子展」には多くの小中学生と保護者が来
場するので、是非タイアップできるようにしていただきたい。

事務局＝「大河ドラマ特別展」とは開催時期が合わないが、学校と絡んでいけるよう
な取り組みを検討していきたい。

委員H＝現在開催している「美術にまつわる5つの話」は、学芸員独自の切り口で収
蔵品を紹介していて面白いと思う。令和5年度の1本目の展覧会も同じような感じ

か。今回のような路線でリーフレットを作っていく予定か。

特任館長＝収蔵品がかなり多いので、きちんと整理して図録として紹介するよう学芸員には指導している。昨年度の暮らし展でも土人形の図録を作成した。今回のリーフレットもその一環。図録は学芸員の力を示すものでもあるので、来年度の「春仙展」や令和5年度の展覧会でも、収蔵品を展示する際は図録を作成する予定である。こういった形を積み上げていくことで常設展に繋げて行ければいいと思っている

委員H＝今回のリーフレットのように学芸員の顔が見えるようなものを継続的に取り組んでいただけるとうれしい。

議長＝ご意見も尽きたようですので、ここでお諮りします。令和5年度開催予定の展覧会計画を執り進めることについて、承認していただけますか。

(全員承認)

議長＝令和5年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、ただいまの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「4 その他」について、事務局から何かありますか。

事務局＝(子どもたちのアール・ブリュット、岡崎アート・ヴィレッジについて説明)

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員E＝アート・ヴィレッジについて、美術館講座の参加者の高齢化が進んでおり、参加者が固定化している問題があると説明があったが、休日や祝日ではなく、若い人たちが働いている平日に講座を開催しているから高齢化は当然だと思う。新しい試みを行う場合、休日や夜でないと若い人の参加は難しいのと思う。講座は岡崎の文化の向上のため続けてほしいと思う。

美術館の第5・第6展示室の通路側の壁がコンクリート打ちっぱなしの壁になっており、ピクチャーレールがあるので作品は掛けられるが、キャプションがつけられないので改修してもらえないか。

事務局＝何年も予算要求し続けているが、なかなか予算がつかない。

委員E＝それほど高額な予算は必要ないので、何とかお願いしたい。

議長＝協議会の意見としてお願いします。

委員D＝アール・ブリュットの展示に指導者のコメントがあるといい。制作前や過程がわかると、作品がより輝いて見えると思う。

美術館のゼロ予算はいい企画だと思う。若い人にきてもらえるといいと思う。

委員D＝美術博物館は公園の中にあり、親子連れが公園を楽しんでいる。美術博物館の2階から1階を通り抜けて駐車場から恩賜池周辺への回遊に利用してもらったり、2階部分のスペースを、建物の外と中とを繋ぐ間の空間として有効活用できると思う。改修の際に2階には受付をおかず、チラシの置いてあるスペースも減らし、休憩スペースを増やしたらどうか。

事務局＝実際に通り抜けの利用や、トイレの利用のために入館される方は多数いる。来年度の改修は工期も半年と短く、展示室内の環境改善に限られるが、30周年を迎える前に第2期改修工事を行いたいと考えているので、その際に検討したい。

委員D＝よりよく、親しみのある施設にしてほしい。

事務局＝貴重な意見を多くいただき、ありがたい。今回「至宝展」を開催したことで、市長や市議会議員にも評価が高く、岡崎にはいいものがたくさんあると認識いただけたと思う。美術館の展示壁の予算は見送られてしまったが、収蔵庫の維持管理や地域文化広場の屋外トイレの改修費などの予算は計上できた。地道に展覧会活動を続けていくことで常設展につなげていくことができればと思う。

議長＝大阪でも30年来の美術館が開館したこともあり、あきらめずに常設展示棟を目指しましょう。

閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重なご意見を頂戴しありがとうございます。「至宝展」も高く評価いただきありがとうございます。今年度は開館25周年の年で、集大成として「至宝展」を開催し、常設展示棟、郷土資料館的な施設の必要性を本気で考えていくべきだと感じた。今後もいい展覧会ができるよう努めたい。皆様のご支援よろしく願います。

事務局＝以上で令和3年度第2回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。次回は7月に令和4年度の第1回会議を予定しておりますので、よろしく願います。本日はありがとうございました。

—以上—